

令和3年度 庄内町振興審議会 文教厚生分科会【議事録】

日 時：令和4年3月23日(水) 午後6時30分

場 所：役場 B棟2階 会議室1

出席者：梅木均委員（分科会長）、佐藤道子委員、海藤喜久雄委員、吉田正子委員、渡部菜穂子委員
（事務局）阿部企画情報課長補佐、武田

欠席者：

1 開 会 18：30 武田 開会・進行

会議の進め方、配布資料の説明。

2 協 議

(1) 意見書確認と集約（別紙資料）

【梅木会長】資料の網掛け部分の意味を知りたい。

【事務局】意見等というより質問的な意味合いとしてとらえたものを網掛けにしている。

【梅木会長】一人ひとり出された意見の説明から入ってよいか。

【事務局】総合計画後期基本計画に対する部分から記載された意見等について、一人ずつ補足説明があればお願いしたい。

【梅木会長】それでは、佐藤委員からどうぞ。

【佐藤委員】子育て支援の部分で、小児科、産婦人科の部分は継続して要望してほしい。それから、高齢者支援のところ、通いの場を早めに立ち上げ充実させてほしい。コロナ過でできなかったという記載が結構あったが、新規立ち上げ支援が必要だと思う。次に、幼稚園・学校教育部分で、以前に学区再編が諮問の中にあったが、いつの間にか立ち消えてしまったので復活してほしい。参考でいただいた資料にはあったが、公民館を合わせた学区の再編、子供たちが減るので学校そのものが減るのではないかと、学区の再編も考えていかなければならない。地域で問題が起きないように、早めに関係者の方々と進めていかなければならないと思い、進み具合も含めて書かせていただいた。あと、ベンチマークで青少年育成の家読の指標70%がどうやって出した数値かわからなかった。また、文化活動には子供たちから参加してもらいたいが、先生の働き方改革があって、学校で参加できないとか、難しいという話があったので、地域と一緒に関われる行事があった場合、参加できる体制にしてもらいたい。

【梅木会長】私が書いた意見も佐藤委員と同じで、学校施設適規模、適正配置検討部分で、昨年度直接町長に対して意見を届けられる審議会ができた。個人的にはここに書いてあるとおり、将来を見据え統合するか、小規模の良さを残した学校づくりをするかの検討が急務であるという意見を書いている。

【梅木会長】小児科の意見は他の分科会の人からも意見がでているようだ。切なる問題であると感じている。

【梅木会長】次に吉田委員、どうぞ。

【吉田委員】高齢者支援ということで、どうしても主となって動くのは大変なので、役場から主体となって頻りに声をかけていただいて、通いの場を立ち上げていただければ、地域の人たちがやりやすいのかなと思う。認知症の人は増えているので、予防のためにもそういう場があったほうが良いと考えた。障がい者支援は、なかなか関連性がないと感じる。障がい者がいたらこの人をどこで訓練させたほうが良いか、どこで社会復帰させたらいいかという道筋がまだできていないようなので、そういうところ体制整備するなどして進めていただきたい。あと、33項目のところは、1-3障がい者支援③障がい児支援の拠点の体制となっているが、中身が、精密検査未受診者への受診を促す体制づくりになっているので、1-5保健医療だと思う。

【事務局】そのように修正する。

【吉田委員】精密検査を受信する人が毎年そんなに増えない。コロナで未受診者がますます増えている状況があるので、なにかできないものかと思った。がん検診について重点にやっているが、第1次受診率は結構高いが、精密健診といわれた方の受診率が上がらない。そういう方々を受診させることができないか。

【渡部委員】会社でも同じ問題があって、1次健診は受けるが、2次健診は行けと言ってもいかない。

【梅木会長】再診をうけさせる仕組みづくりは必要。健康だと思っけていても再診でわかることもある。

【渡部委員】再診する人の気持ちをどう高めるかだと思う。1次は軽い気持ちでうけるが、ひっかかると諦めていかないという人もいる。

【佐藤委員】再診して大きな病気だったらどうしようという不安があって、受診したくないということもある。

【渡部委員】再検診はお金がかかるということもある。がんだとわかればがん保険がおりる場合があるが、そうでない場合の方が多い。その費用負担が嫌でいかないということもある。

【梅木会長】精密健診というのが2次健診のことで、その受診率が低いとなっている。受診率の向上には力を入れないと後々大変になる。それでは、次に海藤委員、どうぞ。

【海藤委員】今回は教育の方に意見をだしている。学校、幼稚園、保育園はどうしても人が集まるので、コロナ禍で教職員の皆さんも大変な思いでやっていると思う。コロナが大変だというのはみんな分かっている、コロナをゼロにすることはできないので、これからはコロナと付き合っていかなければならない。だから、コロナが大変だから何もできないということでは教育としては良くないと思う。この部分で、教職員の評価が下がっているというのが気になっている。大変だと思うが、そのなかでできること、評価をあげていくことをやらなければいけないのではないかと。ベンチマークに、ふるさととの教育推進、あるいは、夢や希望をもっているという部分、あるいは、人の役に立ちたいという部分があるが、例えば、問題を起こす若者は、自分の精神的な根っこがどこにあるかわからないまま過ごしているということを知ったことがある。やはり、生まれ育った家、地域、あるいは、庄内町でもいいと思うが、しっかりここに根を張っているところを、子供の時から教育とってしまうと振りかざすような感じになるが、そういうことを感じてもらえるような教育が大事だと思っている。そのなかで、志を育む重要性ということで書いたわけだが、こういった部分は非常に大事だと思うので、コロナに負けないで、コロナ禍でどういうことができるのか、そういう工夫が必要である。また、「自分には良いところがあると思う」子どものAB評価の割合が下がっているという分析がある。自分のいいところを自分でしっかりもっているか、もっていないかは、非常に大事な部分だと思っている。たとえば、運動と学習で例えられることが多いが、走るのが得意な子もいれば、学習が得意な子もいる。それぞれの得意な部分もみんなに見てもらっていいと思う。自分に何かしら自信を持てる部分がないと、何をやっても駄目だということになり、自己肯定ができなくなってしまう。自己肯定を何からかの形でもつことができる、そういう精神的な部分は非常に重要だと思う。

あと、農林水産の部分を書いたが、新年度からプロジェクトチームを立ち上げるということであるが、1次産業であれ、2次産業であれ、なんでもいいと思うが、特産品を作って町を売り出していくということのようだが、これは必ずやり遂げる、前に進めるという強い思いをもって進めないとなかなか実にならない。どういうプロジェクトチームで進めるかわからないが、生産現場と行政、試験場、普及センターなどが一緒になって、この地域の歴史をみて、どういった作物を育ててきたのか、それが今どうなっているのか、あるいは、作る人がいなくてやめてしまったとか、育たなかったのはどういう理由だったのか、そういった分析も含めて、今ある環境でできるのは何か、しっかりと議論の中で進めていかないとだめだと思う。これからの流れを見たいと思う。

【梅木会長】庄内町は全国に誇れる花とかを作っていると聞く。

【海藤委員】庄内町の花はもともと市場の評価も全国的に高かった。今は高齢化し、現場を卒業していく人が多く、入ってくる人が少ない現状から、少しずつ売り上げが下がっている。そういったところにもテコ入れしなければいけないし、あるいは、国の補助を活用するにしても排水対策が大事で、畑地化事業を進めるにしてもしっかりしたビジョンがないとなかなか難しいと思う。

【梅木会長】少し話はそれるが、ふるさと納税で地方交付税交付団体から外れた自治体でもあると聞いた。おそらく地域のものを、いいものを作って、それを返礼品にして、人口が多くない自治体でもやっている。そういう夢のあるプロジェクトがあるといい。庄内町はいろいろいいことはやっているし、いいものを作っているが、庄内町はこれだという全国に発信するものがない感じがする。発信の仕方だと思う。教育と絡めると、身近にあるものを子供たちに体験学習や見学などにして教えてはどうかと思う。道を歩いても気づかないことがある。例えば、カートソレイユは全国に誇れるものである。ここで育った子が体験したことがないのはもったいないと提案したこともある。ここにしかないもの、農産物なども、全国に発信する取組みは、農業の部門でも教育の部門でも必要なかと思う。

【佐藤委員】私たちが子育てしていた時は、町内会の子供会で行ったりもした。今はどうかかわからないが、そういう取り組み方もできるのではないかと。

【梅木会長】 ウィズコロナの時代で、いろんな面で、無くするものは無くし、新しいものを創り出していくということが問われてくる。それに対する支援やアドバイスが必要になってくる。それでは、次に渡部委員、どうぞ。

【渡部委員】 私は子育てが終了して、子供たちが社会に出たことを踏まえて、いろいろ考えてみた。学校は子供たちに現実的な夢を求めているように感じる。私がかたまさそう感じただけかもしれないが、かけ離れた夢を持ってもできないのではないかという感じで、そういうのを意識が低いと捉えるのもどうかと思った。もっと子供たちの自由でいいのではないか。さっきの話にもあったが、地域をもっと知ることで、自分は農家になろうとか、お母さんになりたいとか、その反面、テレビを見てプロ野球選手になりたいとか思ったりするのはいいことだと思う。カートソレイユの話もあったが、わたしの時は、電車に乗って清川に行き、清河八郎記念館など周辺を散策させた。わたしは仕事柄知っていたので、そういうことができたが、こういうことができるというのをもっと町民にアピールしてもいいのではないか。子供たちが町を知る機会になる。

【梅木会長】 佐藤委員の文化芸術に関する部分の発言がまだでしたので、佐藤委員、どうぞ。

【佐藤委員】 さきほど、先生方の働き方改革もあって土日の事業に出られないという話をしたが、学校に日曜日の事業への参加を相談すると、学校で参加させることが難しく、父兄の理解が必要といわれたことがある。地域と一緒に学校教育を進めるのであれば、地域で行われる事業に対して、見るというもの1つの勉強だと思うので、できる範囲で参加できるものには参加してもらいたい。

【事務局】 今発言のあった総合計画後期計画に関する皆さんの意見を、事務局で取りまとめさせていただき、答申案を作成する。

【梅木会長】 まち・ひと・しごと創生総合戦略と過疎地域持続的発展計画について、2つあわせて、委員の方から発言いただく。佐藤委員、どうぞ。

【佐藤委員】 同じような話になるが、集いの場は早急に立ち上げてほしい。立ち上げにも支援が必要という話ももっともで、グループのリーダーに負担をあまりかけないようにしてほしい。立ち上げたが続かなかったということがないようにしてほしい。それから、移住者のアフターフォローで移住者交流会の記載があるが、移住者同士の交流だけでなく、地域とのつながりを持てるような場作り、最初のきっかけの支援も必要である。あと、住民の利便性のために、公共施設への無線 LAN、公衆 Wi-Fi 設備は早急にしてほしい。また、余目駅のバリアフリー化は必要だとも思う。あと、空き家対策については、住まないが悪くなると聞くので、適切な管理指導が必要だと思う。空き家の持ち主が近くにいない場合もあるので、使いたいときに使える状態にしておくべき。

【佐藤委員】 続けて、高齢者の独居世帯の孤独死が話題になるが、高齢者だけでの問題ではない。近所付き合いがないのであれば、民生委員などの協力を得るなどして、何かできることがないかと思っている。

【渡部委員】 いただいた庄内町のこれからという資料をみると、これだけ人口が減っていることにびっくりした。もっと人口減少が進むのではないかと個人的には思っている。いろんなところに目標値があるが、これは最大限、町の努力が報われた時のものと思うが、これからの町を考えると、人口が減少する想定をしないと全てが上手くいかないような気がする。人口が減るとことは税収が減る。税収が減るとことは、今までどおりの住民サービスができなくなる。それをみんなが理解することができるのか。今までみたいなサービスを維持していくためにはどうしなければならないかを考えなければならないが、まちづくりを主に考えている人は若い世代でなく 40 代から 50 代が多いと思うが、50 年先の未来を考えなければならないのに、自分の世代を中心に考えてしまっているように感じる。町営バスに関しても、人口が減り、高齢化が進むと、車を運転できない、自分で移動できない人が増え、バスや JR の利用が増えると思うが、今の状況では使う人がいないので、どんどんダイヤや本数なくなっていく傾向にある。公共交通手段はこれから先すぐ必要になってくると思うが、維持していくためには利用しないといけない。利用しないと必要ないということになり、なくなってしまう。今どうやって利用していくかを考えていかなければいけない。使ったことがない人は使わないので、例えば、子供たちが登校に活用できるようなダイヤにするとか、買い物しやすいダイヤにするなど、利用できる仕組みづくりがこれからは必要である。

【渡部委員】 婚活や結婚支援についても書いているが、婚活は出会いがないというのが元々の話だと思うが、出会いの場はあると思っている。町にある組織を活用し、婚活色を薄くして、同業種でも異業種でも交流できればいいと思う。結婚に対する支援についても、町内同士の人が結婚しても他市町に引っ越す人もい

る。結婚をきっかけにリフォームする際の補助とか、庄内町に住み続けるための結婚支援があるといい。

【渡部委員】続けて、庄内町の企業に求人が集まらないと聞く。求職を希望する人は、酒田市や鶴岡市で探すことが多いようだ。庄内町で探す人が少ない。庄内町に企業イメージがなく、ベットタウンのイメージが強い。まちづくりとして、もっと企業、働く場所があるというのをPRすべき。

【梅木会長】吉田委員、どうぞ。

【吉田委員】今は結婚適齢期の人口がそもそも少なくなっている。そういうことを考えると、町全体で考えることも大事だが、庄内地区とか広域に大規模に婚活できる体制も整えていく必要もあると思う。

【梅木会長】農業の後継者事情はどうなっているのか。

【海藤委員】30代から40代で結婚していない人はいる。その年齢になると積極的になれないということもあるようだ。農協でも婚活事業はコロナの前はやっていて、それなりの成果はあったと思う。やれば効果はあると思う。人口減少の話になるが、生まれてくる子供の数がここ10年、90人から100人前後で推移している。農業分野だけでなく、人口が減っていくというのは大変な問題で、これが解決できれば、行政で抱える多くの課題が解決できると思う。町としても、いろんな角度から人口を増やす策、空き家対策も含めて、住んでもらう取り組みを、大変難しい問題だが、やらないと先細りになってくる。

【梅木会長】人口減少を意識しなから、人口を増やすための努力をしていく必要がある。企業誘致にしても、おそらく人口減少を食い止めるための企業誘致だと思うが、どういう考え方で進めていくのか見えないということ意見として書かせていただいた。

【梅木会長】そのほか、給食の無償化は進めてほしいし、幼稚園の認定こども園化について、学区再編にからめて、認定こども園化を進め、先生方が交流や研修、情報交換することで、おそらく教育の中身も変わってくると思うし、先生方の質の向上にもつながると思う。

【佐藤委員】民俗芸能の映像記録のことで、伝承ができなくなる前に、具体的にもっときちんと取り組んでもらいたい。まちづくりセンターでできるのではないかといいことだが、どこかできちんと先導して動かないと進まない。

【梅木会長】公民館がコミセンになるということで、地域活動として、全部まちづくセンターの事業になる。コミュニティスクールという場もあり、全部地域におとされるが、大事な庄内町の文化財、芸能の記録を残しておくことはお金もかかることで、地域と連携を取りながらになるが、行政が主導を持ってやらないという話である。

【佐藤委員】今までは集落の行事だったが、人が少なり、すたれてくることになるならば、近くの集落が協力し保存を手伝うとか、学区単位で保存するとか、様々な角度から映像にとって記録に残しておけばつながっていくと思う。

【梅木会長】今回の計画をみると、どの部門でも新しく付け加える事業が増えていると感じる。コロナの影響もあるかもしれないが、成果が上がったという項目があまりなく、かわりに新しいものが増えていると思った。

【渡部委員】人口減少や結婚の話題を機論したが、結婚しない選択している人もいる。結婚して子どもをという考え方もあるが、それに限らず、移住の推進によって人口を増やす施策もある。結婚して子どもを産まなければという流れだけでなく、いろんな選択肢がある。多様な人を受け入れるようにすべき。

【事務局】皆さんからいただいた意見をもとに、事務局でまとめさせていただく。多くの意見をいただいたので、1つ1つの項目をまとめるのではなく、関連する項目をまとめて答申案を作成することになる。事務局で作成したものが意図していないまとめ方になった場合は、次回会議の時に意見いただきたい。まとめた答申案は、次回会議前に皆さんに送付する。

【梅木会長】それでは特になければ、以上で終了する。

3 その他

4 閉 会 20:30